

伊万里で『働きたい・暮らしたい・活躍したい』

● 問合せ 企画政策課男女協働推進係 (☎2115)

男女協働参画社会の実現のため、『第4次伊万里市男女協働参画基本計画』の基本目標として、『**男と女が協働し、すべての人がきらめく“いまり”の実現**』を掲げています。

「市外に住む子どもにも伊万里に帰ってきてほしいけど、働くところが少ないのでは」、「労働環境はどうだろうか」と市内で働くことについて、不安や疑問がある人は少なくないかもしれません。

近年、若年層を中心に、市外への人口流出が続いています。また、共働き世帯の増加や単身世帯の増加など、家族形態の変化や生き方の多様化が進んでいます。

このような社会の変化に対応し、地域が活力を維持していくためには、性別に関係なく、働きやすく、暮らしやすい伊万里にする必要があります。今、伊万里ではたくさんの方が頑張っています。

今回は、これからの時代を担う生徒に、伊万里で活躍する女性たちの経験や活動について知ってもらうために行った『いまり女性会議』を紹介します。

すべての人が働きやすく、暮らしやすい社会を実現するには何が大切なのか、改めて考えてみましょう。

『いまり女性会議』～私の未来は いまりで、決まり!～ を開催しました



↑市議会本会議場で行われた『いまり女性会議』の様子

伊西地区の高校などの女子生徒に、地元で活躍する女性の姿に魅力を感じ、伊万里で『働きたい・暮らしたい・活躍したい』と、自分の未来の姿を思い描いてもらうため、11月20日、『いまり女性会議』を開催しました。議長を務めたのは、九州北部の短大、大学などで日本国憲法や女性学などを教える池田宏子さんです。

女性の政治分野への参画も意識してもらうために会場とした、市議会本会議場の中で、少し緊張した面持ちの生徒たち。伊万里で活躍する6人の女性と、どのような意見を交わしたのでしょうか。

前田社長に 私たちが聞きました



伊万里高校2年 堀江 陽奈さん

女性ならではの気付きや、会社や社員のために心がけていることはありますか。



有田工業高校2年 湯村 明さん

伊万里で働いて良かったことや伊万里だからこそできることはありますか。



古伊万里酒造有限会社 代表取締役 前田 くみ子さん

- 平成23年4月、代表取締役に就任
- 4代目蔵元

Answer

女性として意識するよりも、自分の立場をどう全うするかを念頭に置き、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

国内外で営業を行っていますが、『伊万里』は歴史あるブランド。焼き物の絵柄の商品など、伊万里を絡めて説明ができて、説得力があると実感しています。

大鋸部長に 私たちが聞きました



育児休業を取得しましたか。その時に、仕事への影響はありましたか。

敬徳高校2年 平田 茉優さん



女性が働きやすい環境をつくるために、どのようなことに取り組んでいますか。

伊万里実業高校 商業キャンパス
2年 千崎 沙季さん



伊万里ケーブルテレビジョン株式会社
取締役 放送部長
大鋸 あゆりさん

- 第49回ギャラクシー賞報道活動部門優秀賞受賞ほか

Answer

育児休業の規則など職場環境を整えてもらい、会社で初めての育児休業を取得できました。育児休業中は、代替りの社員が入り、仕事への影響はありませんでした。

女性が働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい職場。短時間勤務や時差出勤などが利用でき、急な休みも取りやすい雰囲気づくりに努めています。

市丸社長に 私たちが聞きました



株式会社百姓屋
代表取締役社長
市丸 初美さん

- 県政功労賞知事表彰受賞 ほか



商品開発で努力されてきたことや、女性だからこそできる取り組みはありますか。

伊万里実業高校 農林キャンパス
3年 針尾 美永さん



伊万里で地産地消を活性化させるためには、何が必要だと思いますか。

伊万里高校1年 田中 菜穂子さん

Answer

どういうものを家族に食べさせたいかを考えて、商品作りに取り組んでいます。伊万里を愛する人たちに、伊万里で育った鶏や花を買ってもらえれば相乗効果になると思います。

前田院長に 私たちが聞きました



院長になるために心がけてきたことはありますか。

伊万里特別支援学校3年 藤 日菜子さん



医師として、どのようなときにやりがいを感じますか。

伊万里高校2年 大久保 夏希さん



医療法人幸善会
前田病院 院長
前田 麻木さん

- 内科認定医、総合内科専門医、糖尿病専門医、透析専門医

Answer

医療は多部署で話し合いながら治療方針を決めるため、院長というより医師として、人に頼む能力や話す能力が大切だと思っています。

食事療法や運動療法を行う中で、「楽しい」と言ってもらえるときにやりがいを感じます。

盛議員に 私たちが聞きました



伊万里市議会
副議長 盛 泰子さん

●平成28年から2年間、県内市議会初の女性議長



伊万里実業高校 商業キャンパス
3年 片山 光希さん

女性が働きやすい職場づくりには何が必要だと思いますか。



有田工業高校3年 松尾 純花さん

伊万里の魅力づくりで心がけていることはありますか。

Answer

誰にとっても風通しがよく、会話のはずむ職場づくりが大切。そのような職場づくりを皆さんに実践してほしいですね。

市外の人から見て魅力的なこともたくさんあるので、小さな発見を大切に、みんなで伊万里の魅力を増やしましょう。

女性であることを不利に感じたことはありません。『女性であることを意識せず、意識させない活動』を心がけているからだと思います。



敬徳高校2年 熊川 結子さん

議員として活動をする中で、女性であることを不利に感じたことはありますか。

加藤議員に 私たちが聞きました



伊万里高校1年 幸島 みすずさん

市議会議員になって、仕事のやりがいを感じるときはどのようなときですか。



伊万里実業高校 農林キャンパス
3年 太田 春さん

高校卒業後に市外への進学が多く、専門的な教育機関の充実について、どう思いますか。



伊万里市議会 議員
加藤 奈津実さん

●令和元年 市議会議員選挙で初当選

Answer

自分の提案で、皆さんの生活を少しでもより良くできたときです。

外から伊万里を見てみて気付くこともあります。もし伊万里に教育機関を作るなら、どこにでもあるような学科ではなく、伊万里の特色を生かしたものが良いと思います。

『いまり女性会議』の議長に感想を聞きました

『若い世代が帰って来た伊万里』や『若い人材が思いっきり活躍できる伊万里』をつくる。

そのために必要なのは、何かを語り合うことだと思います。いまり女性会議が、伊万里の将来を議論する市議会本会議場を舞台に開催されたことは、大いに意義深いことです。

女子生徒が、自分自身の将来と伊万里の将来を重ね合わせて考える機会はめったにありません。

いまり女性会議は九州でも珍しい試みであり、他の自治体にもぜひ参考にしてみたい画期的なイベントでした。

今回の女性会議で、『活躍すること』は、『楽しく頑張ること』なのかもしれないと感じました。



佐賀女子短期大学講師
池田 宏子さん

『第4次伊万里市男女協働参画基本計画』を
推進しています

男女がともに働きやすい
環境づくり

◆ワーク・ライフ・バランス
の推進

『ワーク・ライフ・バランス』が実現すれば、一人一人が生き生きと働くことができ、『仕事以外の生活』も充実します。そして、その充実感が、さらに『仕事』に生かされるといふ好循環につながります。
『ワーク・ライフ・バランス』の普及、啓発のため、市では、事業所などを対象に研修会を開催しています。
ぜひ、積極的に活用してください。

※ワーク・ライフ・バランスとは

『仕事（ワーク）』と育児や介護、地域活動などの『仕事以外の生活（ライフ）』を両立、充実させる働き方や生き方のこと

男女が認め合い、ともに
活躍する社会づくり

◆政策・方針決定の場への女性の参画拡大

政策や方針決定の場において、男女それぞれの意見が反映されることはとても重要です。『審議会等委員に占める女性の割合』の目標を、令和4年度では4割とし、審議会などの委員への女性の参画を推進しています。
少子高齢化による人口減少や過疎化が進む中、女性や若い人たちがまちづくりなどに関わり、自分たちの思いを伝えることが重要です。



男性の育児参画は女性の
活躍推進のためにも重要

政府は、『男性の育児休業取得率』を令和7年までに、3割にするとしています。

◆男性育児休業取得推進

育児休業は、女性だけが取得する場合が多く、女性の社会活動を拒む一因にもなっています。

男性が育児に参画することで、子育て家庭における夫婦の調和や親子の絆が強くなるのが期待できます。また、男性が育児を経験することは、仕事の段取り力や時間管理能力の向上につながり、生産性の向上も期待できます。

さらには、男性の育児参画の促進は、男性自身のワーク・ライフ・バランスの実現だけでなく、女性のさまざまな分野への参画にもつながります。

◆男性版産休制度が始まります

男性の育児参画を促進するため、子どもが産まれてから8週間以内に、最長4週間の休みを1回か2回に分けて取得できる制度です。

雇用主には、制度の周知が義務付けられています。

地域や職場で、男女協働参画についての理解を深めてみませんか

市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』では、さまざまな団体の会合などに出向き、出前講座を行っています。

男女協働参画について、皆さんに分かりやすく、身近に感じてもらうため、団体や人数に応じて、朗読劇や紙芝居を使うなど、内容を工夫しています。

- 男女協働参画について全般的なこと
- 男女協働参画の視点から考える防災
- ワーク・ライフ・バランスに関すること
- DV（ドメスティック・バイレンス）に関すること など

● 申込・問合せ先

企画政策課男女協働推進係 (☎☎2115)

※メールアドレス kikaku@city.imari.lg.jp



デートDV防止紙芝居『これって愛？気付こうデートDV』の一コマ